黒部川における洪水防御(平成27年台風18号)

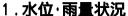
【概要】

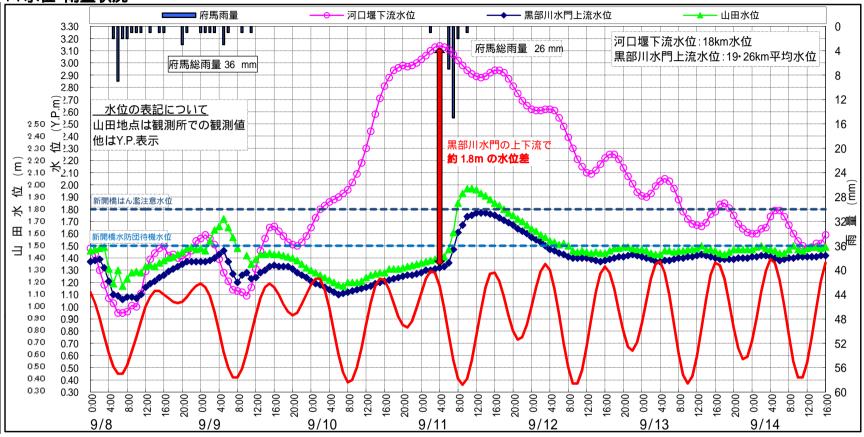
日本に接近した台風18号は、折から本州南岸に停滞していた秋雨前線を刺激したこともあり、9月8日から9日にかけて黒部川流域に降雨をもたらしました。このため、黒部川水門上流では排水ポンプ場と黒部川水門の連携操作により、新開橋地点において水防団待機水位(Y.P.+1.5m)を超えないよう水位の低下を図りました。

ところが、台風18号が9日に日本海に抜けて温帯低気圧に変わった後も関東地方は豪雨に見舞われたため、利根川本川の水位が9日夕方より急激に増加し始めました。

11日朝には黒部川流域に再び降雨がありましたが、利根川本川の方が最大で約1.8m水位が高かったため黒部川水門を開けることができず、排水機場の操作のみで黒部川水門上流の水位低下に努めました。

その結果、新開橋地点ではん濫注 意水位(Y.P.+1.8m)に迫る水位まで 上昇したものの、その後は徐々に下 降し、黒部川沿川の洪水を防ぐことが できました。





2.機場等操作状況

